7

一般社団法人板橋区薬剤師会における公認スポーツファーマシストの活動について ～今までとこれから～

○　保坂　洋二、宮田　博美、加藤　重好
一般社団法人　板橋区薬剤師会

【目的】 一般社団法人板橋区薬剤師会においては公認スポーツファーマシスト有資格者にて、2016年開催の2016板橋シティマラソンより公認スポーツファーマシスト啓発活動から開始し、アンチ･ドーピング啓発活動、アンチ･ドーピング講演会と事業を継続して行っている。2025年度以降、公認スポーツファーマシスト認定制度が「広くスポーツを楽しむ人々へのサポートを視野に入れる制度」となった。アンチ･ドーピングに加えて、スポーツ薬理学、スポーツ医学、スポーツ科学のカリキュラムが追加され、公認スポーツファーマシストはトップアスリートだけではなく、様々な場面でスポーツを楽しむすべての人をサポートするための資格となった。今回、事業継続の過程と今後の展望について報告する。

2016 2017

- 公認スポーツファーマシスト啓発活動開始
  活動場所･･2016板橋シティマラソン会場　活動内容･･リーフレット配付、救護活動補助

区と交渉して活動場所の確保に努める
→活動ブースとお弁当の確保に成功！！

2018 -2019

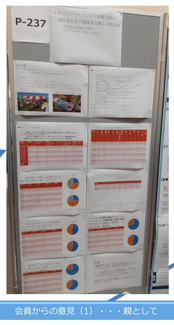
- スポーツファーマシスト啓発活動と一般医薬品及び健康食品購入実態調査
  活動場所･･2017、2018板橋シティマラソン会場
  活動内容･･アンケート調査、リーフレット配付、救護活動補助

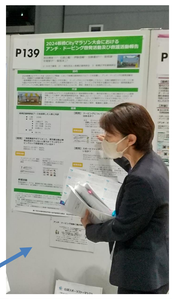
活動場所が確保でき、配付するパンフレット等を増やすことが出来た。
ドーピングに対する認知度や医薬品や健康食品の購入に対する意識調査を合わせて開始した。

2020 -2022

- 新型コロナ感染症拡大にて板橋シティマラソンが中止。

→これ以上の活動が展開できず





2023

- アンチ･ドーピング啓発活動および一般医薬品及び健康食品購入実態調査in2023板橋シティマラソン
- 日本薬剤師会学術大会および板橋区医学会にて活動内容を報告

ただ活動するだけでなく、アウトプット（学術大会や研修会）していくことで、会としての活動が会員に周知されていったことで、会員からの声が会に届けられるようになった。
→声に応えるべく活動場所を検討し、公益財団法人　板橋スポーツ（旧体育）協会と交渉を開始する。

会員からの意見（1）・・・親として

【背景】 子供が東京オリンピックのボランティアに応募するにあたり、ドーピングに関する知識が必要になった。勝利を得ようとするあまりさまざまなことを教唆し、ルールにはズ抜けて厳格な姿勢を求める「方法」や、それらの行為を「隠すこと」を言わず、ドーピングと呼ばれています。例えば、「筋肉を増やしたい」「減量を楽にしたい」「疲れを取りたい」「眠れない時に寝たい」「痛みをなくしたい」「ドーピングは怪我をしない」、そのような言葉は有ふれる言葉ではあるけれど、ドーピングは不性を強いてきた。

【気付き】 ドーピングは、ルールを知らない、ルールを守らない、ルールを変えるなどの行為がドーピング違反になります。ドーピングは、ルールを知ることが出発点です。この機会にスポーツ関係者、ご家族、ボランティアの皆様にドーピングの基礎を学んでいただきたいと思います。

【気付き】 「自分はアスリートではないから」と無関心になりがち。誰もがいつ何時、何が起こるかは分からない。「ドーピングは、ドーピングだけを正しい知識や考え方を身に付けた上で、今後の最低者を目指す自分のことを、より良い成績を残せるように、この機会に興味を持って考えてみてはいかがですか。

（写真：小板武彦、伊東　信　文（武蔵台）

会員からの意見（2）・・・競技者として

【始まり】 スポーツファーマシストを勧誘後、活動の場、活動方法がわからず、このまま消しゴムのような存在になってしまいそうな気がしました。

【行動開始】 自分が所属する区の板橋区に、アンチ・ドーピング啓発活動が始動者が子供たちにアンチ・ドーピング教育をさせてもらえないかと提案させてもらったが、なかなか進まず、「活動費」「活動計画」も作成しました。

【現中提案】 ・世界で活躍する区の板橋区、小学生から正しいドーピングの知識を身に付ける。
・中高校　興味ほぼゼロだ　活動場所が見出せず
活動の出会を模索し始める

2024

- アンチ･ドーピング啓発活動およびドーピングに関する意識調査in2024板橋シティマラソン
- 板橋スポーツ協会主催　令和6年度第2回スポーツセミナーにて
  「クリーンスポーツのための　ドーピングの基礎知識」講演
- 東京都薬剤師会　アンチ･ドーピング活動　地区薬剤師会指導者講習会講師
- 日本薬剤師会学術大会および板橋区医学会にて活動内容を報告

板橋スポーツ協会との協議を重ねスポーツセミナーでの講座の機会を得る
更なる活動の場としてスポーツフェスティバルへの出展を交渉するが今季は間に合わず次年度出展へ交渉を継続。スポーツフェスティバルの下見や区民祭りで活動内容のシミュレーションを実施

令和６年度　スポ協ニュース

No.	６－５５
行事名	板橋スポーツセミナー（第２講座） 「クリーンスポーツのためのドーピングの基礎知識」
会　場	板橋区立ダイーホール　１階ホール
日　時	令和６年 11 月 22 日(金)　午後４時 30 分～午後６時 00 分
主　催	板橋区、公益財団法人板橋区スポーツ協会

令和６年 11 月 22 日(金)午後４時 30 分から、「クリーンスポーツのためのドーピングの基礎知識」をテーマとして板橋区ホールでセミナー第２講座が開講されました。司会は総務部吉田部長が務めました。

講師紹介：宮田 博美（みやた ひろみ）
板橋区薬剤師会理事　公認スポーツファーマシスト
★経　歴　急病大学薬学部卒業、日私医科大学付属病院勤務
出産子育て を経て現在はかえで薬局（板橋区聖人）勤務
★スポーツ歴　小学校４年から剣道を始める
大学は全学剣道部に所属　剣道５段

ドーピングとはスポーツにおいて禁止されている物質や方法によって競技能力を高め、意図的に自分だけが優位になる。勝利を得ようとするあまりさまざまなことを教唆し、ルールにはズ抜けて厳格な姿勢を求める「方法」や、それらの行為を「隠すこと」を言わず、ドーピングと呼ばれています。例えば、「筋肉を増やしたい」「減量を楽にしたい」「疲れを取りたい」「眠れない時に寝たい」「痛みをなくしたい」「ドーピングは怪我をしない」、そのような言葉は有ふれる言葉ではあるけれど、ドーピングは不性を強いてきた。

ドーピングは、ルールを知らない、ルールを守らない、ルールを変えるなどの行為がドーピング違反になります。ドーピングは、ルールを知ることが出発点です。この機会にスポーツ関係者、ご家族、ボランティアの皆様にドーピングの基礎を学んでいただきたいと思います。

「自分はアスリートではないから」と無関心になりがち。誰もがいつ何時、何が起こるかは分からない。「ドーピングは、ドーピングだけを正しい知識や考え方を身に付けた上で、今後の最低者を目指す自分のことを、より良い成績を残せるように、この機会に興味を持って考えてみてはいかがですか。

（写真：小板武彦、伊東　信　文（武蔵台）

公益財団法人板橋スポーツ協会ホームページより引用

2025

- アンチ･ドーピング啓発活動およびドーピングに関する意識調査in2025板橋シティマラソン
- 日テレ･東京ヴェルディベレーザより医薬品等使用に関する相談協力の依頼
- 第3回スポーツフェスティバルin板橋（令和7年10月4、5日予定）　出展決定
- 日本薬剤師会学術大会および板橋区医学会にて活動内容を報告（予定）

区内医療機関の病院薬剤師より協働の打診あり。

スポーツフェスティバル　in 板橋
2024.9.14-15（下調べ）

板橋区と板橋区スポーツ協会主催の
「スポーツフェスティバル板橋」
2024年9月14日（土）・15日（日）
板橋区役所本庁舎前
多摩豊島ことの地域活動拠点の活動
子連れ・ベビーカー・車いすの利用可
ブース・ステージ・ワークショップ
ボルダリング・ボッチャ・ミニゴルフ・ミニ陸上・ミニテニス・ミニサッカー・ミニバスケット・ミニバレー・ミニ野球・ミニ卓球・ミニ剣道・ミニ柔道・ミニ空手・ミニ合気道・ミニ弓道